

# 足大付 王者譲らず

## 男子 21年連続決戦、作新下す



第2セット、足大付の岩岡がスパイクを放つ=石塚万知撮影

スポット

「紙一重でしたね」。足利大付の新井房巳監督の言葉がフルセットの激闘を物語っていた。攻撃、守備両面で作新学院との差はわずか。連覇を伸ばせた要因は高校生

があまり経験しない5セットマッチを生かす戦略だった。終始先行されて失った第1セットが布石。新井監督が「決勝の冴

を重視した。レフト岩岡日向我主将もフルセットを想定していた。慌てずに試合の流れをつかむことを重視した。冷静にプレーしたことで急造布

陣も徐々に歯車がかみ合った。本来の布陣は岩岡と小林優人の2セッターだが、2日に小林が負傷。現有戦力を最大限に生かすため岩岡がアタッカーに専念し、2年生セッター大塚慶吾を先発起用した。

序盤は微妙に合わなかった大塚とアタッカーの呼吸が時間と共に向上。大塚も「サーブレシーブが乱れたらバックアタック、きっちり返したら岩岡」とペースを握った。乱れたサーブレシーブも選手交代で修正。セットを重ねて課題を修正し作新学院をねじ伏せた。

5月の県総体後に多数の部員が新型コロナウイルスに感染。どん底からチームを立て直し、再び全国への切符を手にした。岩岡主将は「この経験を生かして全国は8強以上を目指したい」。前回大会より上の景色を見るため王者はまだまだ強くなる。(星国典)

# 「紙一重」急造布陣が底力



男子優勝の足大付

足利大付 相田和真(男子) 決勝のサーブレシーブで苦戦も持ち味のスパイクで貢献 「サーブで狙われることを想定していたがうまくいかなかった。気持ちを切り替えて前衛で活躍しようと割り切ってスパイクを打ち分けた」

足利大付 川田夢叶(1年生) 国体選抜に選出。男子決勝でスパイクとサーブで流れを呼ぶ活躍 「サーブは朝練でやってきたまま入ってくれた。勝たなきゃいけないプレッシャーを感じていたら、勝ってほっとしている」